

ISOマネジメントシステム価値向上をめざして



## 第三者適合性評価制度における 認定の役割、利用のメリットとは

---

### JAB設立25周年を迎えて

公益財団法人 日本適合性認定協会  
専務理事 事務局長 藤巻 慎二郎

# 公益財団法人 日本適合性認定協会の概要



(設立) 1993年11月1日

日本工業標準調査会(JISC)の答申に基づき、(社)経済団体連合会(当時)傘下の35団体の支援を受けて、日本初の認定機関として設立された。

2010年7月1日 公益財団法人へ移行

(目的)

- 1) 我が国における適合性評価制度及び同制度に係る諸外国との相互承認体制の確立と発展を図る。
- 2) 我が国産業経済の健全な発展と公正な経済活動を支えるとともに、安心・安全な社会基盤構築に寄与する。

(事業)

- 1) 適合性評価制度に係る認定及び指定調査並びにそれに必要な事業を行う。
- 2) 事業の範囲には、適合性評価制度に係る下記の業務を含む。
  - ① 認定した適合性評価機関の登録及び公表
  - ② 適合性評価機関が認証登録した適合組織の公表
  - ③ 国際レベルにおける認定機関間の相互承認の推進、維持
  - ④ 調査及び研究・開発
  - ⑤ 普及及び啓発
  - ⑥ 内外関係機関等との交流及び協力
  - ⑦ その他、この法人の目的を達成するために必要な業務

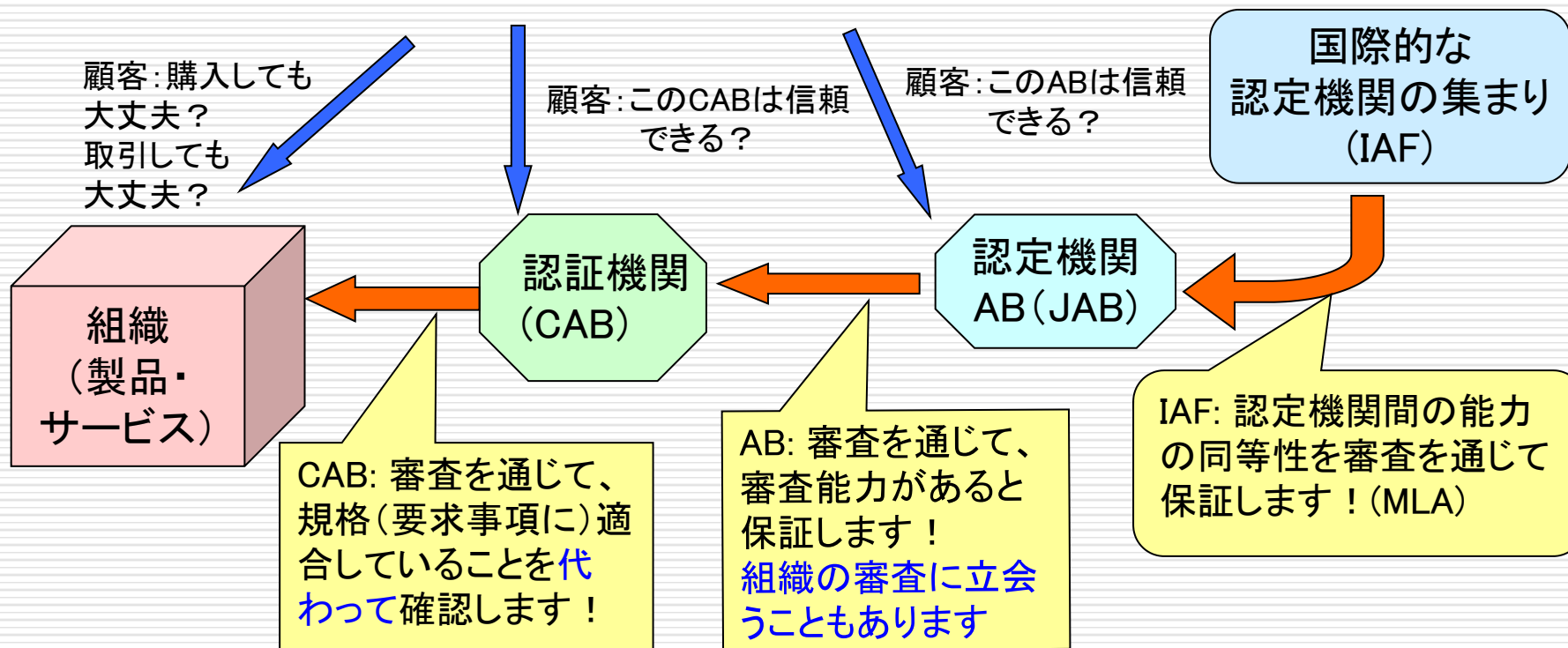
# JABの認定プログラムと対応する国際規格



	試験・校正	臨床検査	標準物質生産者	検査	技能試験提供者	MS認証	要員認証	製品認証	GHG排出量検証等
国際的相互承認	ILAC					IAF			
地域相互承認	APLAC, EA, IAAC					PAC, EA, IAAC			
認定機関	JAB(認定機関) ISO/IEC 17011								
適合性評価機関	試験所・校正機関	臨床検査室	標準物質生産者	検査機関	技能試験提供者	MS認証機関	要員認証機関	製品認証機関	GHG妥当性確認・検証機関
	ISO/IEC 17025	ISO 15189	ISO/IEC 17025 + ISO Guide34	ISO/IEC 17020	ISO/IEC 17043	ISO/IEC 17021-1	ISO/IEC 17024	ISO/IEC 17065	ISO 14065
評価対象	サンプル	検体	標準物質	製品、サービス等	技能試験	組織のMS	要員の力量	製品(プロセス、サービスを含む)	プロジェクトの妥当性・検証プロセス
	試験規格	臨床検査法	標準物質生産方法	一般要求事項及び検査法	試験規格	ISO 9001 ISO 14001 ISO 22000 ISO 50001 等	各種力量を規定した規格	製品規格	ISO 14064-1 ISO 14064-2

# 第三者適合性評価制度の構造

## 購買者／一般社会（顧客）



CAB: Conformity Assessment Body 認証機関など適合性評価機関

JAB: 認定機関、国内の例として(公財)日本適合性認定協会

IAF: International Accreditation Forum, Inc 国際認定フォーラム

MLA: Multilateral Recognition Arrangement 国際相互承認協定

# 認定と認定機関の役割



- **認定 Accreditation**

- 適合性評価を行う機関の能力が適切なものであることを、中立(第三者)の立場で評価し、継続的に監視する。

- **認定機関の役割**

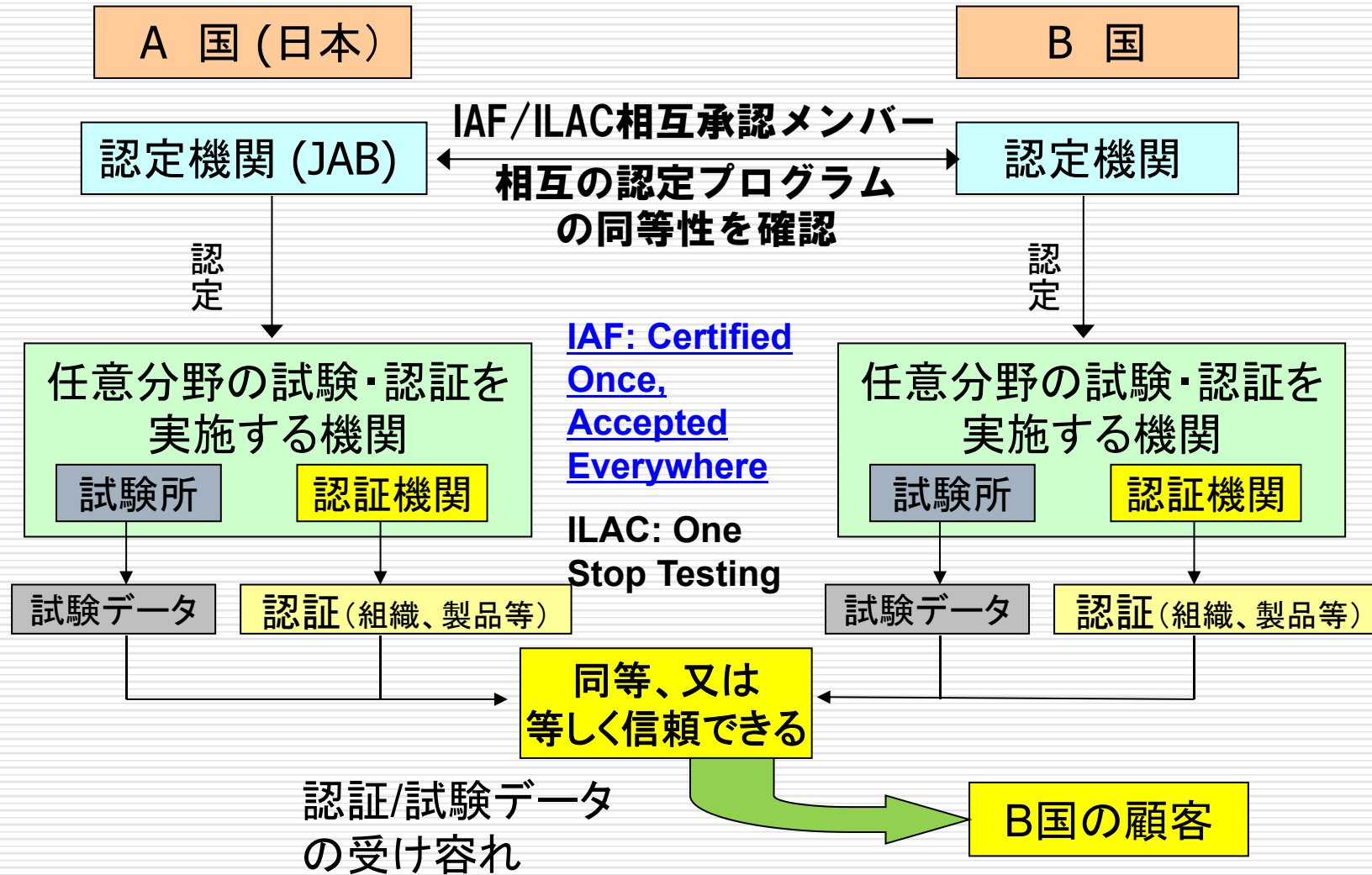
- 適合性評価機関の技術力と信頼性を国際基準に則って透明性を持って評価、実証する。
- 適合性評価機関の技術力と信頼性が適切に維持されていることを継続して監視する。
- 適合性評価結果の国際的相互受け入れのため、自ら相互評価を受け、相互承認に加盟する。

# 国際標準マネジメントシステム活用によるメリット



区分	メリットの例
認証取得組織（供給者）にとって	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自組織の組織力向上(統治、人材、技術、品質等)</li> <li>2. 顧客・社会からの信頼性・透明性の確保</li> <li>3. 取引の維持・拡大</li> <li>4. 顧客・行政からの監査の軽減</li> <li>5. 顧客への円滑なトラブル対応</li> <li>6. <u>国際相互承認活用による国際競争力の向上</u></li> </ol>
購買者、社会（顧客）にとって	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 供給者選択の容易化・効率化</li> <li>2. 供給者管理コスト（二者監査など）の低減</li> <li>3. 供給品に起因する内部コスト低減</li> <li>4. トラブルへの迅速な対応</li> <li>5. 自社の競争力向上</li> <li>6. <u>国際相互承認活用による国際競争力の向上</u></li> </ol>
業界/サプライチェーンにとって	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業界/サプライチェーン全体としてのリスク・管理コストの低減</li> <li>2. 業界としての社会的信頼の確保</li> <li>3. 製品競争力の向上</li> <li>4. <u>業界の国際相互承認活用による国際競争力の向上</u></li> <li>5. 業界としての新分野開拓の促進</li> </ol>

# 国際相互承認の仕組み



# 国際相互承認の価値

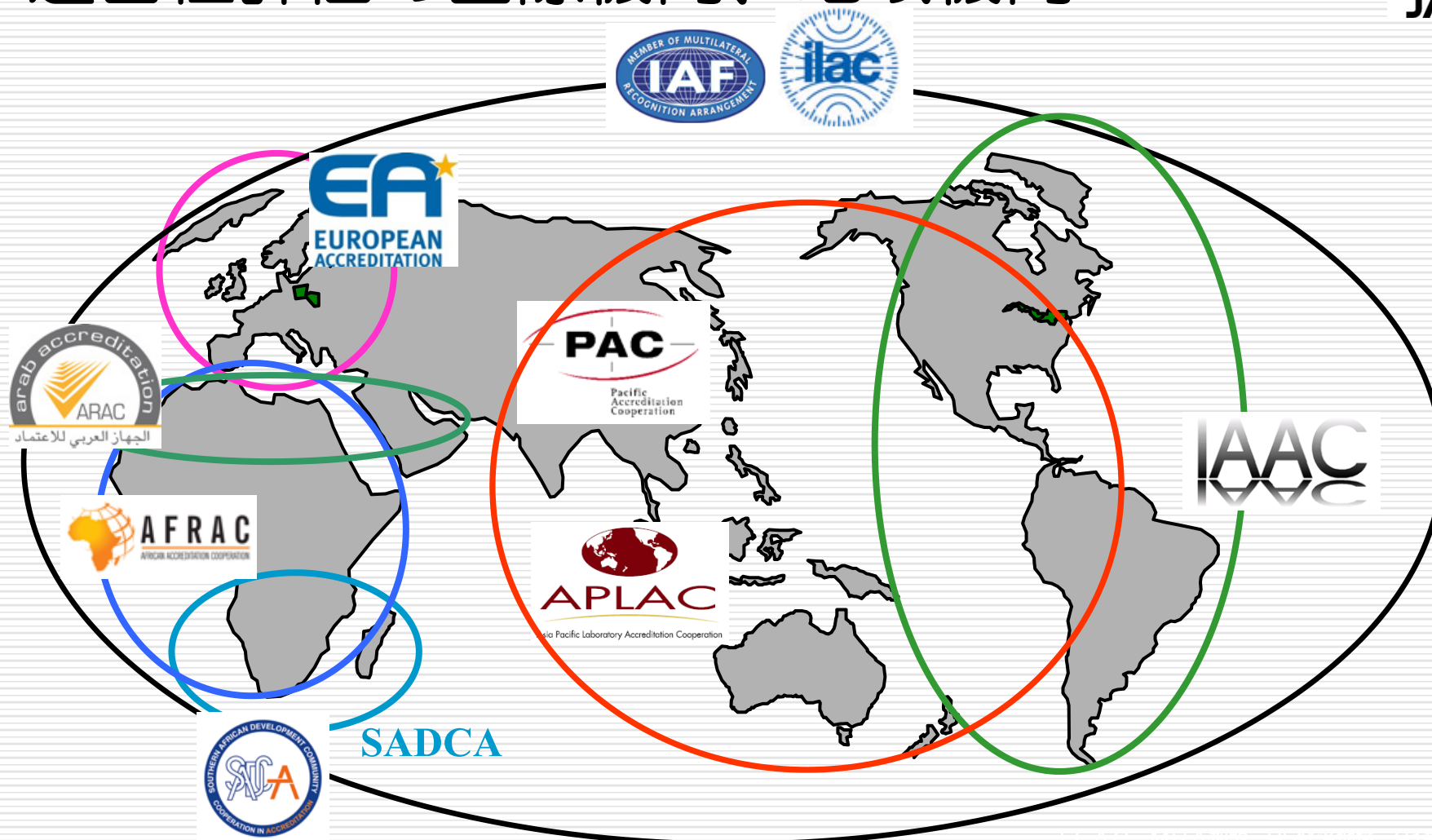
MLA: (Multilateral Recognition Arrangement)

MRA: ( Mutual Recognition Arrangement )

- ・ 目的: 適合性評価を一回実施すると、国境を越えても世界中通用する。
- ・ 仕組み: 相互評価により同等性を確認し、加盟後は同等性を受け入れる。
- ・ レベル: 適合性評価機関間、認定機関間、政府間と多様。
- ・ 分野: 任意分野、強制分野(活用)



# 適合性評価の国際機関、地域機関



IAF: 国際認定フォーラム  
 PAC: 太平洋認定協力機構  
 ILAC: 国際試験所認定協力機構  
 APLAC: アジア太平洋試験所認定協力機構

EA: 欧州認定協力機構  
 IAAC: 米州認定協力機構  
 SADCA: 南アフリカ認定開発協力機構  
 AFRAC: アフリカ認定協力機構  
 ARAC: アラブ認定協力機構

**IAF MLA 67機関(61経済地域)**

# マネジメントシステムの種類

## ◇品質マネジメントシステム(ISO 9001)

ISO 9001ベースとした産業/セクター規格(例)

・自動車(IATF16949)、航空宇宙(AS 9100)、医療機器(ISO 13485)

情報通信(TL 9000)、原子力(JEAC4111)

## ◇環境マネジメントシステム(ISO 14001)

## ◇エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)

## ◇情報セキュリティマネジメントシステム(ISO/IEC 27001)

## ◇ITサービスマネジメントシステム(ISO/IEC 20000-1)

## ◇食品安全マネジメントシステム(ISO 22000、FSSC 22000、JFS-C)

## ◇道路交通安全マネジメントシステム(ISO 39001、N-RTSM)

## ◇労働安全マネジメントシステム(OHSAS 18001)

## ◇アセットマネジメントシステム(ISO 55001)

## ◇事業継続マネジメントシステム(ISO 22301)

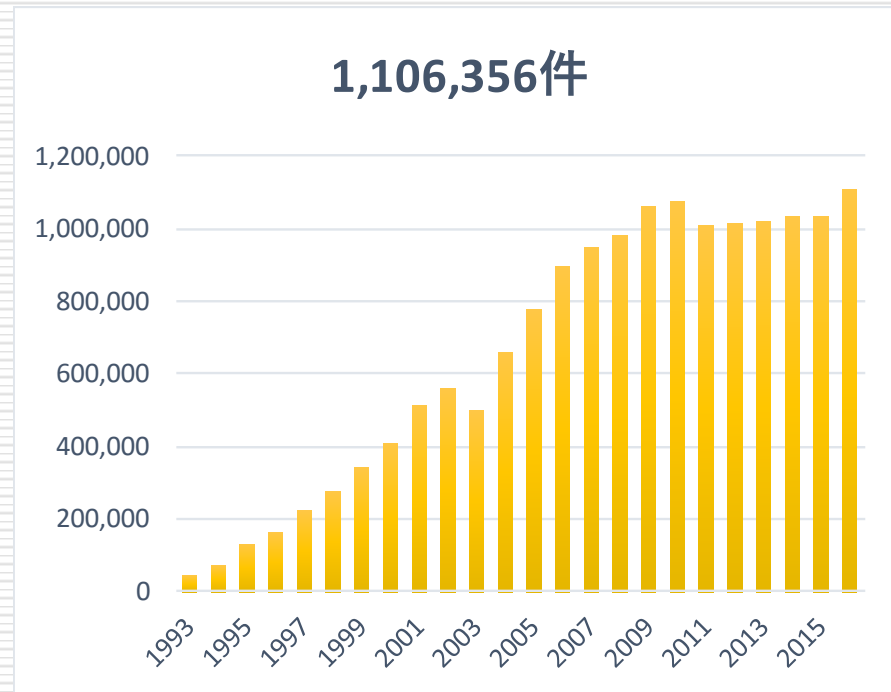
## ◇サプライチェーンセキュリティマネジメントシステム(ISO 28000)

# ISO 9001 認証数

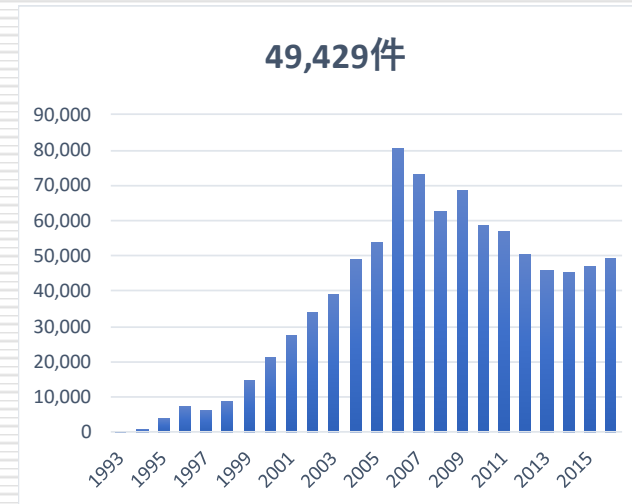
出典: 2017 ISO Survey



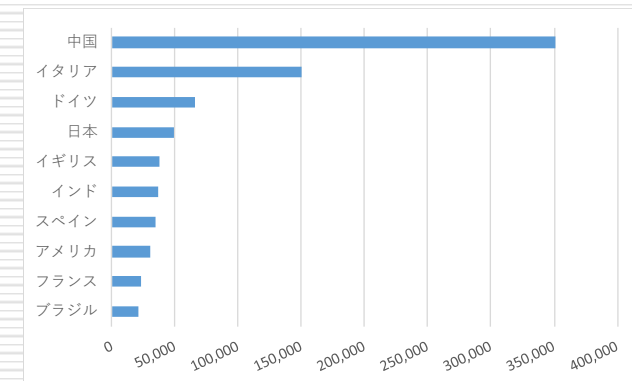
[世界の認証数推移]



[日本の認証数推移]



[2016年国別認証数トップ10]



ISO9001の組織数のトータルは微増  
我が国でも増加傾向  
今後も組織経営のツールとして活用

ISO9001取得組織数の比率: わが国の企業数に対して3%弱

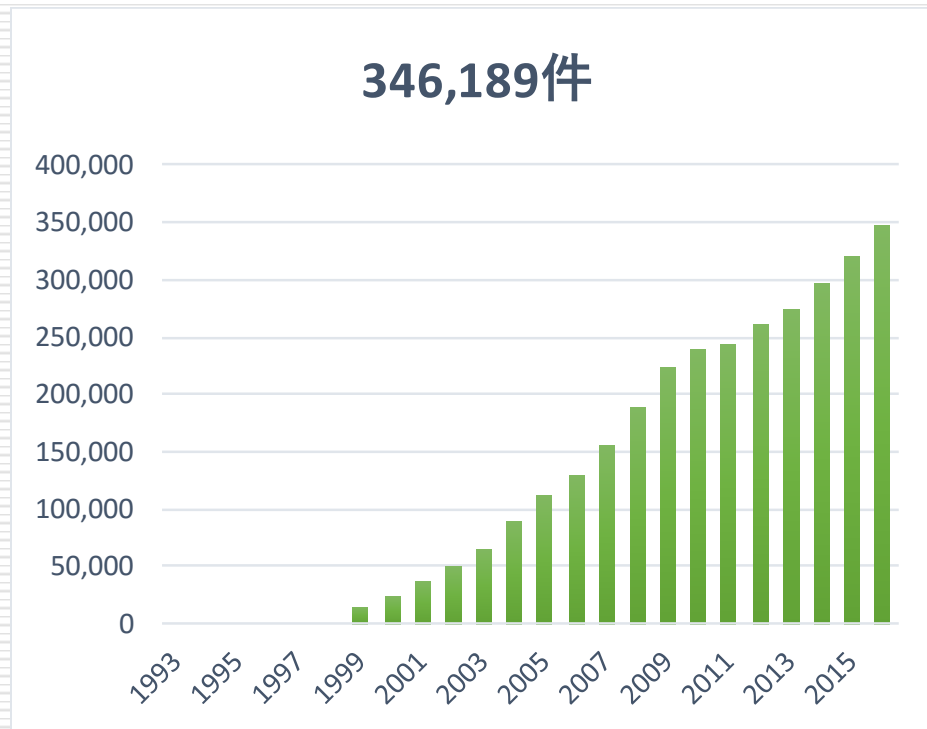
・わが国の企業数約188万(法人)[総務省「平成28年経済センサス-活動調査結果」より]

# ISO 14001 認証数

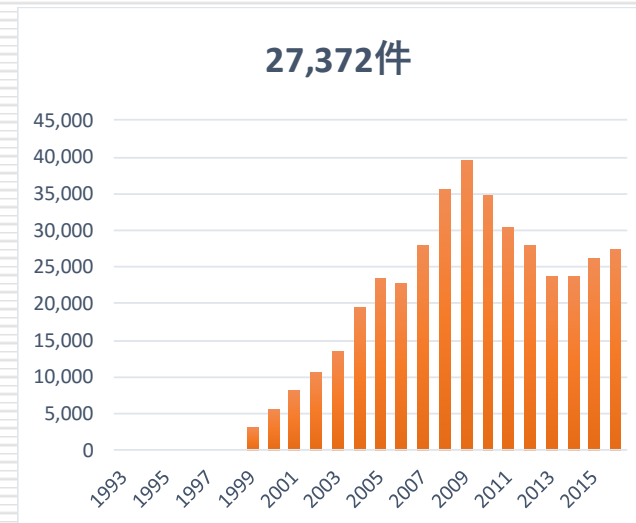
出典：2017 ISO Survey



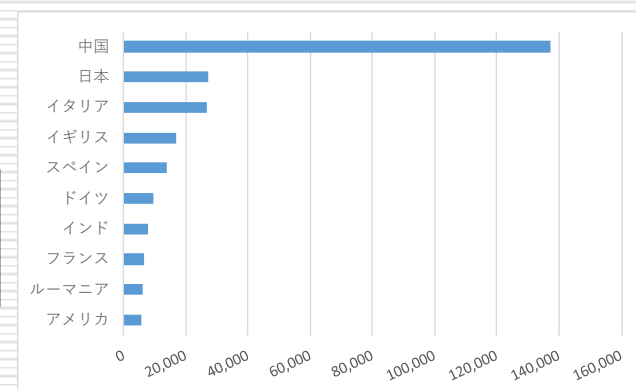
### 【世界の認証数推移】



### 【日本の認証数推移】



### 【2016年国別認証数トップ10】



今後も、地球温暖化・気候変動をキーに  
エネルギー・環境問題の対策ツールとして活用

## 認証・認定制度を取り巻く環境

- ◎ 政府の日本再興戦略、未来投資戦略にてSociety 5.0達成に向けて、輸出拡大、官民の標準化の連携を強化
- ◎ JIS法の改訂(約70年ぶりの大幅改定予定)
- ◎ 2020年東京オリンピック調達要件に認証の活用
- ◎ EPA(TPP含む)推進による貿易拡大
- ◎ 地球温暖化問題を含めた環境対策がさらに加速
- ◎ ESG投資の推進(環境、事業継続、企業統治)
- ◎ 国際標準の有用性の再認識と積極提案の推進(行政・産業界)

◆ 組織不祥事による我が国産業の信頼低下  
(自動車メーカーの検査不正、材料メーカーの検査データ改ざん 他)



- ◎ 国際標準に基づいたマネジメントシステムは国際競争力向上に強力な経営のツール
- ◎ ISO 9001, ISO14001 2015年版での対応は組織の改善の大きなチャンス

- ◆ 不正には必ず理由があり、いずれかあるいは複数のプロセスに課題有り
- ◆ 不正は必ず判明する。対応で莫大な犠牲を払うことになることをすべての関係者が認識
- ◆ 真の顧客は誰かを常に考えマネジメントシステムを運用することが重要

# 第6回JABマネジメントシステムシンポジウム



- 日時: 2018年3月20日(火) 10:00~17:00
- 会場: 有楽町朝日ホール (東京都千代田区)
- 内容: 2015年度版の有効活用と構築のポイント

第6回 JAB マネジメントシステムシンポジウム  
2015年版の有効活用と構築のポイント

2018年3月20日(火) 10:00~17:00 (開場 9:30~)  
会場: 有楽町朝日ホール (東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオ11階)  
参加料金: 一名10,000円 (テキスト1冊、消費税を含む)

昨年、品質や環境のほか、様々な分野を扱うマネジメントシステム(MS)規格が流行・改訂されています。これらのMS規格を効率的に活用し、併せて経営の改善・構築を推進することが、組織で保証される課題とされています。

公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)では、MS認定・認証を取り巻く状況や規格のニーズに即した新しい企画を、広く社会及び認証申請者に提供するため、MS研究会を設立し、活動を行っています。MS研究会では、組織におけるMSの構築・運用・認証取得等における課題について「知見を共有し、その知見をマネジメントシステムシンポジウムにおいて共有しています。

本事業は、ISO 9001及びISO 14001:2015年版の効率的な運用に向けて、組織、審査機関として規格の重要なポイントにどのように対応すべきを中心とし、3つのワーキンググループ(WG)で検討を行っています。

シンポジウムでは、3つのWGの検討結果を報告するとともに、ご来場者からの疑問を募り、WG主宰・メンバーにて質問・フィードバックする機会を設けます。

広く皆様のご参加をお待ちしております。

プログラムの流れ	
10:00~10:15	主催者挨拶 公益財団法人 日本適合性認定協会 理事長 飯塚 俊功
10:15~10:45	基調講演 マネジメントシステムの第三者認証制度が目指すべき姿 慶応義塾大学 理工学部 環境工学科 教授 山田 勇
10:45~10:55	休憩
10:55~11:55	JAB マネジメントシステム研究会 報告 WG1 リーダークラッシュに参画した2015年版QMS -組織の両端を繋ぐリーダークラッシュ- ビューローベリタスジャパン株式会社 マネジメントシステム部 二カ礼 若菜 豊井和彦
11:55~13:10	昼食休憩
13:10~14:10	JAB マネジメントシステム研究会 報告 WG2 リスクと機会を組織を活性化するEMS INコンサルティング株式会社 代表取締役 寺田 和正
14:10~14:20	休憩
14:20~15:20	JAB マネジメントシステム研究会 報告 WG3 認定認証制度の価値向上への提言 日本損害ニューエイ株式会社 執行役員 技術管理部長 藤原 亮行
15:20~15:40	休憩
15:40~17:00	質疑・応答 コーディネーター 慶応義塾大学 山田 勇 JAB マネジメントシステム研究会 メンバー (プログラムの内容については、当日発表することになります)

主催 公益財団法人 日本適合性認定協会

ご清聴ありがとうございました